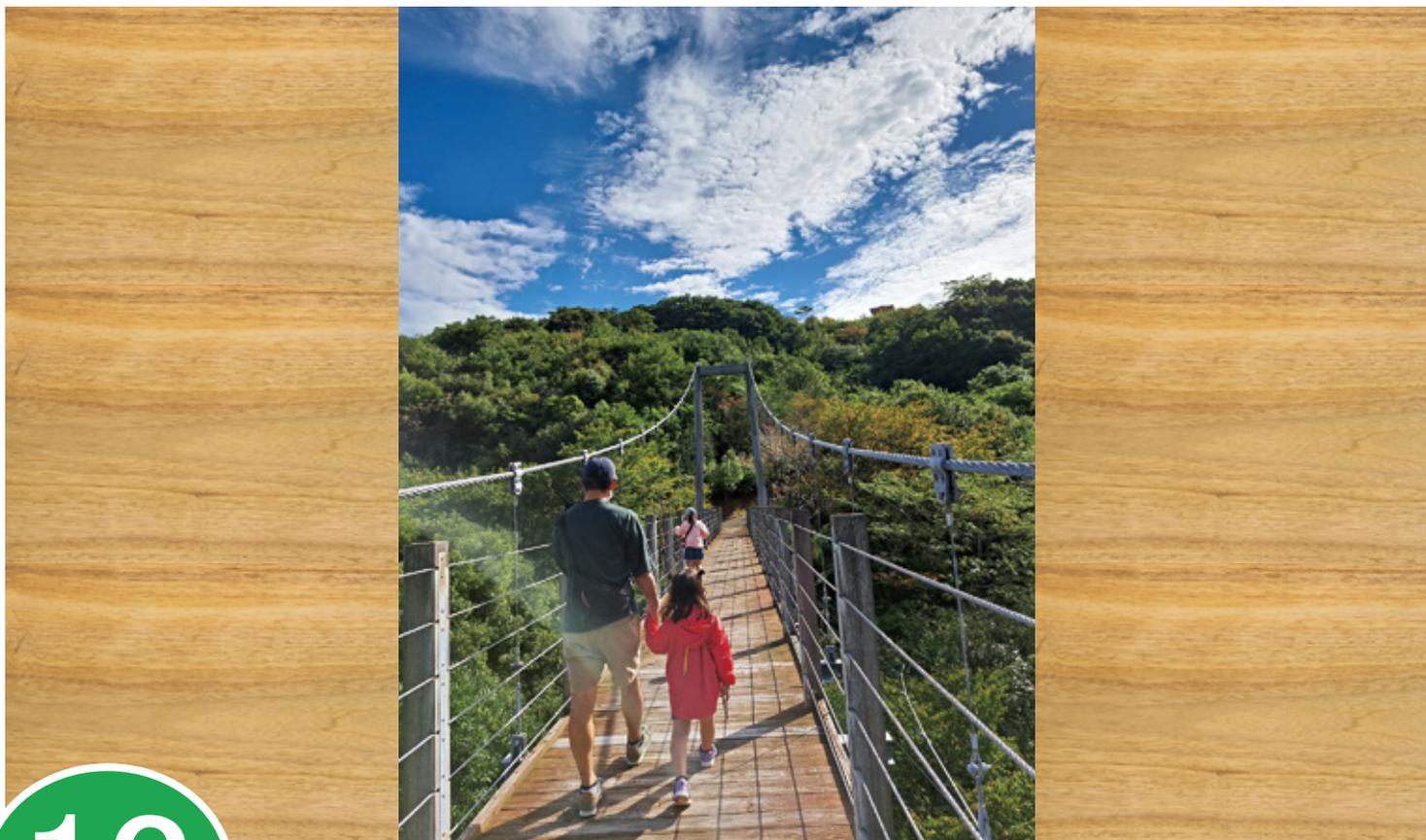


# 長崎の林業

小曾根星堂書



長崎県民の森フォトコンテスト2022最優秀賞「つり橋の先のウキウキへ」（長崎市 松浦綾子さん）

12

## 目次

● 林政だより	『第62回治山研究発表会』最優秀賞受賞!!	2~3
● 特集記事	日吉自然の家 古田ひかりさん	4~5
● 林業普及だより	里山でおいしい秋を満喫!	6
● 地方だより・県央	保安林は地番指定です	7
● 地方だより・対馬	森林作業道作設研修 開催	8
● 林業団体情報	長崎県森林ボランティア支援センターの取組	9
● センターだより	原木シイタケ栽培に被害を与える害虫とその対策	10
● 紹介コーナー	「ふるさとの森フェスタ」開催	11
● 長崎の山と森	徳泉川内・里・山・村（大村市）	12

「長崎の林業」は、ながさき森林環境税により発行しています。



2022 No.807

木づかい推進で地球温暖化を防止しよう！

ながさき森林環境税の取組についてはこちら→



森林ボランティアに興味のある方はこちら→



FREE

ご自由にお持ち下さい。  
「長崎の林業」はこちらからもご覧いただけます→



林政だより

# 『第62回治山研究発表会』最優秀賞受賞!!



## はじめに

9月28日(水)～9月29日(木)東京都渋谷区の国立オリンピック記念青少年総合センターで開催された第62回治山研究発表会において、長崎県森林整備室 安達技師と、農林技術開発センター 鎌田主任研究員の共同研究による「ドローン×航空レーザ」(第2セッション)を発表し、最優秀賞を受賞しました。

この研究発表会は、治山に関する技術、保安林制度や林地開発許可制度運用の研究・情報交換等を通じて、治山技術の向上、保安林制度の円滑な推進及び森林の保全に関する科学技術の振興を図ることで、国土の保全、水資源の涵養に寄与することを目的として開催されるものです。

第1セッション「山地災害からの復旧対策、事前防災等における取組」(9課題)、第2セッション「調査・計画策定時等における取組」(8課題)、第3セッション「設計・施工・維持管理等における取組」(8課題)、第4セッション「海岸防災林、森林の適正な利用・保全に向けた取組」(8課題)の発表があり、各セッションから最優秀賞1課題、

優秀賞2課題が授与されました。

## 「ドローン<sup>カケル</sup>×航空レーザ」とは?

県は災害発生時の迅速な対応を目的に、山地災害調査の省力に取り組んでいます。これまで治山の現場では被災箇所の撮影にとどまっていた「ドローン」と、県下全域で作業を進めている「航空レーザ」測量成果を組み合わせた現地調査や地形図等の作成を職員が行っています。



発表の様子

この「ドローン×航空レーザ」を活用することで、ドローンによる空中写真測量を行う際に必要となる標定点の取得作業が省力化され、図面作成が容易になります。

県では、迅速に災害対応できるよう、平成30年度から各地方機関の職員に対して、ドローンの操作研修を進めており、職員の約8割が受講を完了しています。さらに、今年度からパソコンと解析ソフトの導入や、地形図等の作成研修もあわせて進めています。



ドローン操作研修状況



地形図等作成研修状況

## 取組の成果

令和3年8月の大雨により幅約60m、長さ約125mの地すべりが発生した、南島原市南有馬町大抜地区おおぬけで、「ドローン×航空レーザ」を用いて測量～解析を行いました。従来の方法であれば約2日かかる作業時間が、約4時間となり山地災害調査の省力化が図れ、かつ、災害区域内への入域をおさえることか

ら、職員の安全を確保した上で、災害時に必要な被災状況、図面データを迅速に取得することができました。



(令和3年8月の大雨による被災箇所)  
おおぬけ  
大抜地区

## おわりに

審査員から、新しいアイデアを考案するだけにとどまらず、実際に使えるものにするため、県職員を対象とした研修を実施して、その技術の定着・浸透に努めている点が素晴らしいと評価されました。

県では、今後も「情報収集」や、「避難体制の整備」、「災害復旧」が迅速にできるよう、全職員がドローン操作～解析までの技術を身に付けることを目指していくとともに、日々進歩する技術に取り残されることなく、早急な対応に取り組んでまいります。



表彰の様子（左から2番目が安達技師）

(森林整備室 治山班)

【特集記事】



日吉自然の家  
ふるた  
古田 ひかりさん

長崎市飯香浦町にある、豊かな自然に囲まれた「日吉自然の家」。

自然環境の中での集団宿泊生活及び野外活動を通じて少年の健全な育成を図り、自然に親しむ機会を提供する事により、市民の生涯学習の振興を図る目的で設けられた社会教育施設です。

この「日吉自然の家」で宿泊学習や野外体験の指導と、主催事業の企画・運営を行っている、古田ひかりさんにお話を伺いました。

### 森林インストラクターへ

長崎市で生まれ育った古田さんは高校で環境問題について興味を持ち、自然を守る仕事をしたいと思うようになりました。

大学ではバイオテクノロジーを学び、研究機関の職に就き、水質の分析等の業務をこなしていましたが、自然と直に向き合えるような仕事への思いが強くなり、28歳の時に「長崎市民の森森林体験館」で働き始めます。長崎市民の森の業務で「森林インストラクター」の資格が必要になったため、

2年の月日をかけて見事合格されました。

「森林インストラクター」とは、森林や林業の知識を豊富に持つ森林のスペシャリストの事で、例年合格率は低い傾向を持つ、難関と言われている資格の一つです。

### 森林ボランティア団体の立ち上げ

長崎市民の森森林体験館副館長として勤めた6年間は、毎日が新しい発見の連続で、わからない事だらけでしたが、良きアドバイザーとなってくれたのが、長崎市民の森にて森林ボランティア活動をおこなっている方たちです。放置竹林が目立っているので何とかしたいという同じ思いを持ち、その仲間達と森林ボランティア団体である「ながさき楽しみの森づくり会」を立ち上げました。長崎市民の森を中心に森林整備をおこない今年で10年目を迎えます。今でも森林の事で疑問があれば、代表の蓑田さんや田淵さんなど会のメンバーには相談を欠かさないそうです。



ながさき楽しみの森づくり会のメンバー  
(右端：古田さん)



大学生と行った里山林整備

## 日吉自然の家へ

結婚を機に佐世保市へ転居することになり、佐世保市の動植物園「森きらら」で経験を生かした植物園管理を任される事になりましたが、再びご主人の転勤で長崎市に戻ることになります。そうした中、長崎市民の森時代の館長折山さんから誘われ、「日吉自然の家」で働く事決めました。折山さんとは小学生の野外体験で一緒にトレッキングに行ったり、カレー作りを手伝ったりと、理解のある先輩として、とても信頼を置いている間柄です。

## 昔ながらの里山林を目指して

日吉自然の家では初めての経験も多く、特に苦労したのは、チェーンソーを使った木の伐採だと言います。

森林は適切な整備をする事で、里山林特有の生物多様性を維持する事が出来ます。

古田さんの好きな風景でもある広葉樹林の森の中に光が入り、花が咲き蝶が飛んでいるような明るい森林を目指し、日々尽力しているそうです。今年度から日吉自然の家周辺の森林にて長崎大学学生と森林ボランティア団体による整備が始まるそうです。

## 更なる夢に向かって

お休みの日も4歳の娘さんと一緒に、山登りやカヤックを楽しむ、自然が大好きな古田さんに日吉自然の家での今後の目標をお聞きしたところ、「長崎は全国でも有数の自然の宝庫なので、その特徴を活かした自然に触れ合えるプログラムを企画し増やしていきたい」とのことでした。

周りの人に助けられて何とかやってこられたと、笑顔で話す古田さんのモットーは、自然を学ぶ為に受けたレンジャー養成講座の時に「自分自身がプロフェッショナルになる必要はないので、色々な人の話を聞いて、人と人とを繋ぎ、結果として自然を守る事が出来るジモトリストを目指せ」という言葉だそうです。

どんぐりの木「スダジイ」と、黄色い小花が可愛い「オミナエシ」の花が好きだとお話された古田さん。控えめだけど、どちらも日本の里山には欠かせない、縁の下の力持ちといった雰囲気、お人柄と重なります。今後も更なるご活躍を期待しています。

(NPO 法人地域循環研究所)

林業普及だより

# 里山でおいしい秋を満喫！

「南島原市みんなの森守協議会<sup>もりもり</sup>」は、南島原市で活動しているボランティア団体です。イオン環境財団の協力を得て、平成22年から3か年かけて広葉樹55,500本を植栽した「南島原イオンの里山」（南有馬町上原地区）を拠点に活動しています。

当時植栽した苗木の中には、500本のクリが含まれています。植栽から10年以上経ち、実が収穫できるまで成長しました。そこで、9月24日に「南島原市みんなの森守協議会」の主催で「栗拾いと栗ご飯づくり」の体験会が開催され、市内の小学生親子27名が参加しました。

体験会は栗拾いからスタートしました。参加した子供たちは、絵や写真で見ることがあっても実際に触れる機会はめったにない栗のイガイガを見たり触ったり興味津々でした。親子でたくさんの栗が収穫できました。

栗ご飯づくりは、お父さんやお母さんが中心となって行いました。ご飯を炊くための飯盒<sup>はんごう</sup>を、現地に生えている竹を利用して作り、栗とお米・水を入れ、現地調達した薪で炊きます。竹製飯盒での炊飯は強い火力が必要なので、火加減に苦労しながら時間をかけてご飯を炊きました。

大人たちがご飯を作っている間、子供たちは、ネイチャーゲームをしながら自然を五感で楽しんだり、竹でお箸を作ったりしながら、ご飯が炊けるのを待ちました。

栗ご飯は、一時間ほどかけてようやく炊きあがりました。「自分たちで収穫した栗を使って苦労して火を炊き、自分で作ったお箸で食べる栗ご飯はとても美味しかった」という声を聞くことができました。

普段の生活では味わえない体験と美味しさが詰まった一日となりました。

(島原振興局 林務課)



栗の収穫



竹のお箸づくり



早く炊けないかな？



できあがり

地方だより



## はじめに

現在、県央振興局森林土木課に「保安林に指定されているか」という問い合わせが多数寄せられています。

普通林の伐採届等は市町の担当部局に提出するものですが、保安林制度の手続きの多くは長崎県の出先機関（振興局）で行います。

## 保安林は地番指定です

保安林の指定は地番で指定されています。地番が分からないと保安林であるかどうか判りません。最寄りの法務局に行って該当する地番を登記事項証明で取得し、地目（土地の用途による区分）をご確認ください。

地目は「山林」「田」「畑」「宅地」…など23種類に区分され、その中に「保安林」の地目があります。

### 注意点

保安林には一部指定の保安林があります。それは該当地番の一部分だけ指定されているということです。

その場合、法務局で取得する登記事項証明では全部指定でない限り地目は「保安林」と表記されません。「山林」「雑種地」等のままです。

## 簡単に調べる方法

長崎県のホームページで、保安林を地番で検索する方法です。検索方法を3つご紹介します。

- ① トップページ → 組織で探す → 農林部（林政課）→ 森林の管理 → 保安林制度に関する情報 → 保安林の地番確認 → 該当する市町をクリックしてダウンロード
- ② 検索サイト  
「保安林の地番確認 長崎県」で検索してもヒットします。
- ③ QRコード

このデータに記載されている地番が保安林です。



さらに、保安林内で作業する場合、伐採（伐採方法や人工林・天然林）や作業内容（作業道・歩道の開設、その他の簡易な施設の設置等）について事前の手続きが必要となります。管轄の県振興局へお問い合わせください。

（県央振興局 森林土木課）

地方だより

# 森林作業道作設研修 開催



現地研修の様子

横尾講師と  
栗田林業集合写真

路線  
配置の  
検討

## はじめに

10月12日(火)から3日間、森林作業道作設研修が行われました。これは「魅力の林業づくり隊育成事業」(長崎県森林環境譲与税事業)を活用し、事業体独自の研修として、対馬市の栗田林業が、作業の効率化を図るための安全性と生産性の向上を目的に開催しました。

## 研修会の内容

講師として福岡県の新誠木材 しんせいもくざい 代表 よこおしん 横尾新二氏にご来島いただきました。横尾氏は「一般社団法人 フォレスト・サーベイ」が開催する森林作業道作設オペレーター研修等の講師として、全国で数多く指導をされています。

路線が決まると互いに発表し「なぜそこに道をいれたのか」を重点的に話し合うことで、路線配置への理解を深めることができました。その後、受講者それぞれがオペレーターとして、実際に作業道の作設を行いました。



作業道作設の経験が浅い方でもイメージできるようにポールやテープを用いて線形を視覚的に示す等、受講者それぞれの経験値を踏まえ、的確にご指導いただきました。また、使用する機械の特徴や細かな操作方法を指導いただき、とても実践的な研修となりました。



座学の様子

研修では1日目に座学にてチェーンソーの伐木技術や作業道作設の基本的事項から、作業システムや現場条件に合わせた対応策について講義していただきました。特に排水処理は作業道作設において重要な作業の一つであり、適切に処理することで継続して利用できる壊れにくい作業道となるため、そのポイントを詳しくご説明いただきました。

2日目は現地実習を行いました。まず、班に分かれ踏査を行い、路線を検討しました。



線形確認

## 最後に

事業体独自の研修会は今回が初めてでしたが、作業員同士の意見交換もしやすく、技術的な理解が深まりました。受講者全員から「非常に良い研修だった」との声を聞くことができました。今後も事業体ごとの課題に合わせて弱みを改善し、強みを活かし、ステップアップする取組が広がることを期待します。

(対馬振興局 林業課)

## 林業団体情報

## 長崎県森林ボランティア支援センターの取組

長崎県森林ボランティア支援センター（以下「センター」）では、森林ボランティア活動を多くの県民の皆様にご案内いただくことや、現在活動を行っている個人・団体、これから活動を始めたいという方々のお手伝いをさせていただいております。

また、森林ボランティア活動を行う団体の皆さまが、安全に安心して活動できるよう、様々な支援も行っています。今回はその一部をご紹介します。

## 技術研修会

センターの主な業務として、技術研修会を開催しています。今年度は初めて、大学生のボランティアサークルの皆さまと実習を行いました。

最近では、若い方々から森林ボランティア活動に対する興味の声が聞かれます。今回も、研修会に是非参加したいとの要望から実施に至りました。

実習を行ったサークルでは、森林ボランティア活動を今後も続けていきたいそうで、他の森林ボランティア団体と一緒に、定期的に整備を行っていくとのことでした。



大学生サークルとの里山林整備

## 企業の森づくり

長崎県では、「森と海を育む企業の森づくり」として、県内の森林等を守る為に活動を行う企業のサポートをしています。

昨今、企業ではCSR活動の取組の一つとして森林へ目が向けられ、森林整備・保全に関するセンターへの相談件数も増加の傾向にあります。

今年度は、新たに1社の協定締結が行われました。現在7つの企業が、それぞれ森づくりを行い県内の森林保全の為に活動しています。

## ふるさとの森フェスタ

センターでは、「ふるさとの森フェスタ」を毎年開催しています。このイベントは、多くの人に森林に触れ合ってもらい、楽しく遊び学びながら森林のことを考えるきっかけとして実施しています。今年度もながさき県民の森オートキャンプ場で開催し、ご来場者は400名を超え大盛況となりました。

日頃から森林や環境の保全活動に力を注いでおられる団体の皆さまのご協力で、20を超える各ブースでは、参加した多くの子供達に竹や木を使った森林体験等を楽しんでいただきました。



ふるさとの森フェスタ ステージイベントの様子

## ながさき木育事業（新事業）

令和4年度から新たに、小学校5年生を対象とした「ながさき木育事業フィールド学習の支援」を開始しました。

今年度はモデル事業として県内の小学校3校で森林環境教育のフィールド学習を実施し、次年度はより多くの小学校からの受入れを行う予定です。

（長崎県森林ボランティア支援センター）

森林ボランティア活動や企業の森に関するお問い合わせは当センターTEL095-895-8655までお気軽にご連絡ください。

## センターだより

## 原木シイタケ栽培に被害を与える害虫とその対策

## はじめに

原木シイタケは伐採した木（以下、原木）にシイタケ菌を植え付け（以下、植菌）、栽培します。野外で栽培するため害虫対策が必要です。

害虫がほだ木を食害すると、シイタケ菌糸（以下、菌糸）の伸長が妨げられ、害菌の侵入が促進されます。すると、樹皮が剥離し、ほだ木の損傷が進むことでシイタケ発生量の減少などの悪影響を与えます。そこで、代表的な害虫及び基本的な対策（表1）について紹介します。

## 菌糸まん延前のほだ木の対策

ほだ木はカミキリ類の幼虫から被害を受けます。産卵時期は4月～7月です。幼虫は菌糸を避けて食害し、食害している孔に菌糸が伸長すると死にます。対策は適期に植菌し産卵期前に菌糸をまん延させることです。

なお、ハラアカコブカミキリは成虫が越冬するため、産卵期は他のカミキリより早い4月からです。菌糸まん延前に、目合い4mmの防除網で仮伏せ中のほだ木を被覆することを推奨します。

## 完熟ほだ木の対策

菌糸を食害する害虫はシイタケオオヒロズ



写真1 キイロトラカミキリ

コガやホソマダラホソカタムシの幼虫です。両種とも菌糸が伸長した後にほだ木に侵入します。対策はほだ場の通風を良くし陰湿とまらないようにする、繁殖源になる落ち葉や廃ほだを取り除くことです。

## 生シイタケの対策

シイタケ（子実体）を食害する害虫はニホンホソオオキノコムシやキノコバエ類の幼虫、トビムシ類です。対策は取り残しシイタケや落ち葉、廃ほだを取り除くことです。

## 残った原木はほだ場の外に搬出

令和4年5月に対馬においてキイロトラカミキリ（写真1）が植菌していない原木に産卵していました。対策は他のカミキリ類と同様です。適期に植菌し、残った原木はほだ場の外に搬出して防除してください。

（農林技術開発センター）

表1 代表的な害虫及び基本的な対策

被害対象	時期	害虫	産卵期	対策
ほだ木	菌糸まん延前	キイロトラカミキリの幼虫	5～6月	ほだ場やその周辺に発生源となる広葉樹の枯木を放置しない 産卵期はほだ木に防除網をかける 産卵期までにシイタケ菌糸をまん延させる
		ハラアカコブカミキリの幼虫	4～5月	
ナガゴマフカミキリの幼虫	6～7月			
		クイクイムシ類	—	シイタケ菌糸を速やかにまん延させる
	完熟	シイタケオオヒロズコガの幼虫	梅雨期 5～10月	ほだ場の通風を良くし陰湿とまらないようにする ほだ場の落ち葉や廃ほだを取り除く（繁殖源を取り除く） 新ほだ木を被害ほだ木の近くに置かない
		ホソマダラホソカタムシの幼虫		
生シイタケ	発生時	ニホンホソオオキノコムシの幼虫	—	取り残しシイタケの除去（繁殖源を取り除く）
		トビムシ類	—	ほだ場の落ち葉や廃ほだを取り除く（繁殖源を取り除く）
		キノコバエ類	—	通気や採光を図り、シイタケを乾かす 取り残しシイタケの除去（繁殖源を取り除く）
		シイタケオオヒロズコガの幼虫	—	出荷前の選別

シイタケ栽培の技術と経営（昭和61年）を参考に作成

イベント情報

# 「ふるさとの森フェスタ」 開催

ふるさとの森フェスタは、森林ボランティア活動の推進及びながさき森林環境税の周知を目的として毎年開催しています。今年度は11月3日(木・祝)、長崎県民の森オートキャンプ場にて開催し、参加者は400名を超え賑わいを見せました。

当日は森林ボランティア団体や森づくり活動を行っている企業・団体、長崎南部森林組合、長崎県民の森、(公社)長崎県緑化推進協会、長崎県森林ボランティア支援センターがそれぞれ森林に係る体験・展示等を行っており、木工クラフトや竹細工、薪割り体験の他、緑の募金、きこり体験ツアー、ハーベスタ(林業機械)の展示・試乗、ネイチャーゲーム等の場が設けられました。



きこり体験ツアー(森林の説明)

また、ステージでは、丸太積み上げ体験や森の紙芝居クイズ、楽器の演奏の他、長崎県民の森のフォトコンテストの表彰式、NBCラジオパーソナリティー<sup>かわせ たかし</sup>川瀬隆史さんと長崎県林政課長<sup>ながた あきひろ</sup>永田明広さんとの対談など様々なイベントが行われました。

来場者からは「木や竹で色々な工作ができて良い経験になった。」「森林について良いお話を聞くことができて勉強になった。」「子どもも大人も楽しめて大変良いイベントだった。」等の感想があり、森林について学びながら、賑やかで楽しい時間を過ごせたようです。

(NPO法人地域循環研究所)



木工クラフトの体験の様子

## 伊万里木材市況

【ヒノキ】

令和4年11月現在

長さ	径級 cm	等級	高値 (円/㎡)	現在出荷量	現在引合	需要見通
4m	16~18	直	20,300	普通	普通	少ない
	16~18	小曲り	18,800	普通	普通	少ない
	20~22	直	22,800	普通	普通	普通
	20~22	小曲り	21,200	普通	普通	普通
	24~28	直・小曲り	21,200 ~19,400	少ない	普通	普通

【スギ】

令和4年11月現在

長さ	径級 cm	等級	高値 (円/㎡)	現在出荷量	現在引合	需要見通
4m	18~22	直	16,500	少ない	普通	普通
	16~22	小曲り	14,500	少ない	普通	普通
	24~28	直	16,500	少ない	普通	普通
	24~28	小曲り	14,500	少ない	普通	普通

※情報・お問い合わせは、伊万里木材市場 電話 0955-20-2183

## 長崎の山と森

とくせんがわち  
徳泉川内・里・山・村(大村市)

徳泉川内・里・山・村と大村湾

大村市徳泉川内町にある「徳泉川内・里・山・村」は面積が5.5haある広大な場所で、西側には大村湾や長崎空港を眺望できる景観に恵まれた里山です。その敷地内には、どんぐりの森の他、シイタケホダ場、農園、ツリーハウス、あずま屋、バイオトイレ、ピオトープ、縄文式竪穴小屋、森の音楽堂等の施設があります。

元々は県立大村城南高校の実習地だった場所ですが、普通科への変更により廃止、遊休地になっていた所をおおむら里山村づくり委員会（平成24年12月にNPO法人登記完了）が「市民参加型のふれあいの場」として平成24年6月に長崎県から借用しています。その後、大村市の住民主導型地域活性化事業や林野庁の森林・山村多面的機能発揮対策交付金事業、長崎県のふるさとの森林づくり事業等様々な事業を活用し、除間伐や竹林整備、植樹等の山林保全の活動や森の音楽堂等の施設の設置を行いました。令和4年には、市民参加型里山村づくり10周年記念事業として、もみじロードづくりを計画、九電みらい財団の助成を受け、令和4年2月にヤマモミジとヤマボウシの植樹が行われ、沢山の方が参加しました。

「徳泉川内・里・山・村」では、通年で里山林整備やプレーパーク、体験学習等が行われています。草木染、森の音楽堂交流コンサート（森の音楽隊やリコーダー、ギター、チェロ、オカリナなど）、木工教室、サツマイモ他収穫祭、シイタケ駒打ち、大村里山俳句会等、様々な活動を実施し、ま

た今年10月に初めてニホンミツバチの採蜜も体験しました。特に通年で行われているおおむら里山村プレーパークは、「ケガと弁当は自分持ち」の大原則のもと、毎月最終日曜日に子どもの自由な遊び場空間を提供しており、自由に遊びながら自然に触れ合うことで、楽しみつつ、生きる力を育むことを目的にしています。



おおむら里山プレーパークで活動中

NPO法人おおむら里山村づくり委員会代表の加<sup>か</sup>固<sup>こ</sup>治<sup>はるお</sup>男<sup>お</sup>さんは、遊休地をみんなで使える場所にしたい、自然環境を残して次世代に残していきたい思いが原動力になっています。「公的補助や様々なアドバイスを受けて、思い描いたものが出来つつあり、里山で子ども達の元気な姿を見ることができてとても嬉しい。色んな方が参加してつくっていく場所なので、共有地としてこれからも大切に育てていって欲しい。」と話しました。

里山再生の活動を通して、発展した「徳泉川内・里・山・村」は、里山も人も笑顔になるよう、これからも続いていくでしょう。

(NPO法人地域循環研究所)

長崎の林業 12月号 第807号  
編集・発行 長崎県林政課  
住所：長崎県長崎市尾上町3番1号  
電話：095-895-2988  
ファクシミリ：095-895-2596  
メールアドレス：  
s07090@pref.nagasaki.lg.jp